

# 組織概要と活動について



一般社団法人 全国日本語教師養成協議会(全養協)

The Japanese Language Teachers' Educational Council

## 1. 設立の経緯

全養協は、2001年4月に日本語教師養成講座を運営している機関が全国規模で集い、前身となる任意団体が設立された。

2006年6月には有限責任中間法人として法人登記し、2008年12月には公益法人改革関連法案の成立と共に一般社団法人に移行し現在に至る。

## 2. 目的

日本語教師養成講座及び日本語教師の質的向上を図るとともに、日本語教師、日本語学習者及び日本語教育に関心を持つ人々を幅広く支援する事業を行い、内外の日本語教育に寄与することを目的とする。

## 3. 組織概要

- 名称 一般社団法人 全国日本語教師養成協議会
- 所在地 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-13-11 TEL: 03-5337-7004 FAX: 03-5332-6762
- URL <http://www.zenyoukyou.jp/>
- 設立 2001年4月13日国内の日本語教師養成講座各機関により任意団体として設立

- 顧問 水谷 修(名古屋外国語大学)
- 役員 代表理事 吉岡 正毅(千駄ヶ谷日本語教育研究所)
- 常任理事 鈴木 紳郎(アークアカデミー)
- 理事 黒崎 誠 (ラボ日本語教育研修所)
- 監 事 片山 浩子(岡山外語学院)
- 監 事 深尾 紀子(東京外語専門学校)

■加盟機関 2009年4月現在、北は北海道から南は九州までの15機関が加盟している。

— 加盟機関一覧 —

- アークアカデミー
- IAY インターナショナルアカデミー
- アルファ国際学院
- 岡山外語学院
- 学校法人中村英数学園 九州英数学館国際言語学院
- 学校法人KCP学園 KCP地球市民日本語学校附設日本語教師養成講座
- 学校法人綾紘学園 環球日本語学習院日本語教師養成科
- 神戸YWCA学院専門学校
- 国書日本語学校日本語教師養成講座
- 学校法人静岡日本語教育センター
- Japan Australia Language Centre
- 仙台イングリッシュセンター
- 千駄ヶ谷日本語教育研究所
- 学校法人東京国際学園 東京外語専門学校
- 財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所

■事業内容

- (1) 国内外の日本語教育に関心を持つ全ての人々の日本語教育の質的向上に関する教育支援のための事業
- (2) 日本語教師の質的向上のための事業
- (3) 日本語教師養成講座の質的向上のための事業
- (4) 日本語教育活動及び日本語学習者への支援事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 4. 主な活動

### ① 全養協日本語教師検定

～検定実施に至る経緯と検定の特徴～

2006年3月に「第1回全養協日本語教師検定」を実施した。その目的は、「現場で日本語を的確に教えるために必要とされる実践的な知識・能力」すなわち実践力の測定にある。

日本語教育の現場に必要な知識・能力とは何か、また、それを測るにはどうしたらよいか、ということは日本語教師養成に携わる教員に課せられたとても難しい課題である。この検定は、全養協に加盟する全国の日本語教師養成機関から日本語教師養成を担当する教員が集まって、この難しい課題をどう解決したらよいかという長い議論のなかで生まれたものである。

～測定項目～

全養協では、以下の項目を実践力を形成するものと捉え、検定の測定項目としている。

- ・ 専門的能力
- ・ 指導能力
- ・ 学習者への対応能力
- ・ フィードバック能力
- ・ パフォーマンス能力
- ・ 自己育成能力

～試験形式～

実践的知識を測る客観式問題(試験Ⅰ・90分)と授業の映像を見て問題点を考える記述式問題(試験Ⅱ・70分)に分かれている。

試験Ⅰでは、文型項目の用法上の区別といった問題から、文法・語彙論・音声・教授法といった、日本語教育の現場で直接求められる実践的知識とそれをもとに判断する力を問う問題が出題される。

一方、試験Ⅱでは、初級レベルや中上級レベルの授業の前提となる諸条件と教案が配布された上で授業の映像が流され、それを視聴して、教案や教師の対応上の問題点とその対策等を記述するという流れで進められる。選択肢のヒントなどがない状態で、問題点に気づくことが出来るか、また、何が問題で、それに対してどう対処すればよいか、限られた時間内で考え、記述することで教師としての実践能力が問われる。

#### ～検定の役割～

検定試験は、60%以上の得点率が得られるかどうかで合否が決まるが、単なる合否だけではなく、受験者全員に「今後のアドバイス」が伝えられ、どういうスタンスで教師としての実践力に磨きをかけていけばよいかの指針が得られる。

「試験の果たす役割というのは、ただその人に資格があるかどうかということよりも、これを目標に何を身につければいいかということを示す部分にある」(法人顧問水谷修氏の言葉から)。この検定も、単に合否を決めるだけではなく、受験された方々が、受験をきっかけに何らかの気づきを得られ、受験者各自の成長に繋げられるよう願っている。

#### — 第7回全養協日本語教師検定の実施 —

- ・ 日時:2012年1月22日(日)
- ・ 受験地:国内10都市、海外1都市で実施した。  
国内:札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、岡山、福岡、沖縄  
海外:オーストラリア(シドニー)
- ・ 受験料:6,000円(税込)

## ② 全養協フォーラム

全養協では、設立以来、加盟校の講座ガイドラインや修了要件の基準作りなどを通して、加盟校の講座の質的向上に努めてきたが、2001年4月の設立記念講演会以来、より広い視点から日本語教師の役割と日本語教育について考えるとともに、教師としての成長を促す場を提供すべく、過去7回のフォーラムを実施し、各回報告書を刊行している。

— 過去のフォーラムの日時・場所・内容 —

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第1回「中国・韓国の日本語教育を語ろう」

講師: 李 若柏(中国東北師範大学赴日本国留学生予備学校校長)

李 徳奉(韓国日本学会会長)

実施日①:2002年9月14日(土) 場所:札幌国際プラザ

実施日②:2002年9月16日(月・祝) 場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第2回「21世紀の日本語教師の役割」

基調講演「これからの日本語教師に期待される使命と責任を考える」

講師 :水谷 修(名古屋外国語大学学長)

事例報告:「日本語教育の最前線から」

(1)「児童教育の現場実践から」

斎藤 ひろみ(東京学芸大学国際教育センター助教授)

(2)「地域の日本語教育活動から」

梶村 勝利(東京日本語ボランティアネットワーク代表)

(3)「ビジネス日本語の教育現場から」

綿引 眞知子(JAL アカデミー日本語科総括マネージャー)

実施日 :2003年12月13日(土)

場 所 :国立オリンピック記念青少年総合センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第3回「開かれた社会と日本語教育」

基調講演「開かれた社会と日本語教育」

講師:梶田 孝道(一橋大学大学院教授)

第2部(1)基調講演を踏まえて「日本語教育の現在・過去・未来～求められる未来像～」

講師:春原 憲一郎((財)海外技術者研修協会 日本語教育センター長)

第2部(2)「(仮称)全養協日本語教員試験について」

講師:吉岡 正毅(全養協専務理事)

水谷先生と語る日本語教育「深化し拡大する日本語教育の将来像」

講師:水谷 修(名古屋外国語大学学長、全養協顧問)

実施日:2005年1月8日(土)

場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

・(全養協設立5周年記念)全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第4回「サブカルチャーと日本語教育の接点を探る」

プレゼンテーション「サブカルチャーの現在」

(1)「日本のアニメ文化」

講師:岡田 斗司夫(大阪芸術大学客員教授)

(2)「韓国でのサブカルチャー～韓国人の見た日本文化～」

講師:申 東淳(韓国アニメーション製作チーム aniB105 所属)

(3)「ソフトパワーとしてのサブカルチャー」

講師:勝又 美智雄(国際教養大学教授)

パネル討論「サブカルチャーと日本語教育」

パネリスト:岡田 斗司夫(大阪芸術大学客員教授)

申 東淳(韓国アニメーション製作チーム aniB105 所属)

勝又 美智雄(国際教養大学教授)

白井 義弘(東京中央日本語学院学院長)

「全養協・日本語教師検定」実施にあたって

吉岡 正毅(全養協専務理事、試験実施委員会委員長)

実施日:2006年1月7日(土)

場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第5回 「今問われる、日本語教師の実践力～日本語教師の実践力とは何か、実践力を身につけるにはどうしたらよいか～」

講演「日本語教師の実践力とは何か、実践力を身につけるにはどうしたらよいか」

講師:横溝 紳一郎(佐賀大学留学生センター教授)

第1回・日本語教師検定の実施状況と結果分析

吉岡 正毅(全養協専務理事、試験実施委員会委員長)

実施日:2007年1月13日(土)

場 所:岡山県国際交流センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第6回 「日本におけるこれからの言語政策を考える ～CEFRと日本語教育スタンダード～」

講演「日本におけるこれからの言語政策を考える～CEFRと日本語教育スタンダード～」

講師:嘉数 勝美(独立行政法人 国際交流基金 日本語事業部長)

第3回全養協日本語教師検定結果報告と日本語教師に求められる実践力について

吉川 正則(全養協問題集 編集委員)

実施日:2008年3月29日(土)

場 所:早稲田ゼミナール高田馬場校

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第7回 「日本語教師のやりがいと楽しさ～教室で求められる日本語教育能力とは何か?～」

パネルディスカッション「教室で求められる日本語教師の教える力の育成」

司会:伊東 祐郎氏(東京外国語大学)

パネリスト:片桐 史尚氏(明海大学)

嶋田 和子氏(イーストウエスト日本語学校)

永井 早希子氏(東京ギャラクシー日本語学校)

黒崎 誠氏(ラボ日本語教育研修所)  
全養協が考える『日本語教師の実践力』とその取り組み  
吉川 正則(全養協問題集 編集委員)  
実施日:2009年3月28日(土)  
場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第8回「日本語教師に求められる資質・能力 ― 多様化する学習者に対応して ―」

講演「日本語教師に求められる資質・能力」  
講師:西原 鈴子氏(前東京女子大学教授)  
パネルトーク「多様化する学習者と日本語教師の資質・能力」  
司会:黒崎 誠(ラボ日本語教育研修所)  
パネリスト:佐藤 睦氏  
(独立行政法人国際協力機構 海外青年協力隊事務局 募集・広報課課長)  
鈴木 勝代氏(東海日本語ネットワーク代表)  
山本 弘子氏(カイ日本語スクール代表)  
実施日:2009年11月14日(土)  
場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第9回「日本語教師の多様化と求められる専門性・資格～現場で望まれる教師像に迫る～」

講演「日本語教師の多様化と求められる専門性・資格」  
講師:西原 鈴子氏  
(文化審議会会長、元日本語教育学会会長、元東京女子大学教授)  
パネルトーク「現場で望まれる教師像とは」  
司会:黒崎 誠(ラボ日本語教育研修所)  
パネリスト:遠藤 由美子氏(アークアカデミー)  
小山 紀子氏(千駄ヶ谷日本語教育研究所)  
佐々木 綾氏(静岡日本語教育センター)  
実施日:2010年10月30日(土)  
場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

・全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第10回「日本語教師の実践力～現状を打破するスキルアップのために!～」

講演「現場で求められる日本語教師の実践力」  
講師:伊東 祐郎氏(東京外国語大学教授・留学生日本語教育センター長)  
パネルトーク「現場で求められる実践力とは?」  
司会:黒崎 誠(ラボ日本語教育研修所)  
パネリスト:小島 真弓氏(東京外語専門学校)  
小山 紀子氏(千駄ヶ谷日本語教育研究所)  
高野 真司氏(アークアカデミー)  
西川 寛之氏(明海大学)

実施日:2011年11月20日(日)

場 所:千駄ヶ谷日本語教育研究所高田馬場校

### ③全養協公開講座

全養協では、2007年から「日本語教師の実践力」をテーマとした公開講座を実施している。講座では、2006年12月に刊行した『全養協日本語教師検定 準拠問題集「日本語教師の実践力」』をテキストとして、問題集の執筆者が自ら講習を行う。

前半は、日本語教育の現場で求められる実践能力と学習活動の実際について、会場参加者と共に考える形で解説し、後半では、日本語クラスの授業風景のVTRを見ながら、教室における学習活動の中で教師に求められるものは何かを、参加者との双方向のやり取りを通して具体的に考えていく。

#### — 過去の公開講座の日時・場所 —

- ・ 2007年9月29日 (東京)国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・ 2008年3月9日 (福岡)(学)九州英数学館国際言語学院
- ・ 2008年10月21日 (東京)明海大学
- ・ 2008年11月29日 (沖縄)日本文化経済学院
- ・ 2009年9月5日 (札幌・仙台)札幌ランゲージセンター  
仙台イングリッシュセンター(遠隔地同時上映)
- ・ 2009年9月12日 (大阪)アークアカデミー梅田校
- ・ 2009年10月27日、12月1日 (東京)明海大学
- ・ 2009年11月28日 (那覇)琉球大学 千原キャンパス
- ・ 2009年12月5日 (福岡)(学)九州英数学館国際言語学院
- ・ 2010年9月11日 (大阪)アークアカデミー梅田校
- ・ 2010年10月2日 (福岡)(学)九州英数学館国際言語学院
- ・ 2010年10月16日 (那覇)沖縄国際大学
- ・ 2010年11月27日 (東京)千駄ヶ谷日本語教育研究所高田馬場校



- ・ 2010年12月14日、2011年1月18日（東京）明海大学

## 6. 出版物

- 『全養協日本語教師検定準拠問題集 日本語教師の実践力』

B5版／128 ページ、DVD(収録時間:約 25 分)一枚付き

ISBN:978-4-915515-20-0

本体価格:1,800 円(税別)

- 報告書1『全国日本語教師養成講座連絡協議会設立記念講演報告書』

- 報告書2『今後の一般日本語教師養成講座のあり方』

- 報告書3『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第1回～中国・韓国の日本語教育を語ろう～』

- 報告書4『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第2回～21世紀の日本語教師の役割～』

- 報告書5『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第3回～開かれた社会と日本語教育～』

- 報告書6『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第4回～サブカルチャーと日本語教育の接点を探る～』

- 報告書7『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第5回～今問われる、日本語教師の実践力～』

- 報告書8『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第6回～日本におけるこれからの言語政策を考える～』

- 報告書9『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第7回～日本語教師のやりがいと楽しさ～』

- 報告書10『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第8回～日本語教師に求められる資質・能力～』

- 報告書11『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第9回～日本語教師の多様化と求められる専門性・資格～』

- 報告書12『全養協フォーラム:日本語教師・日本語教育 第10回～日本語教師の実践力～』